

精神科デイケアにおける就労支援のための作業体験プログラムの開発と その効果検証

リハビリテーション科学研究科 作業療法科学分野
精神障害作業療法開発学領域 08D015 藤田さより

要旨

【研究目的】

本研究は、精神科デイケアにおける統合失調症者に対する就労関連技能の改善を図ることを目的とした「就労支援のための作業体験プログラム」を開発し、その有効性を検証することである。

【研究の対象と方法】

研究対象者：精神科デイケアを利用する、統合失調症者であり、且つ就労を希望する 60 歳以下の者で、本研究に同意を得られた者とした。

本研究の目的を達成するために、研究Ⅰ～Ⅲを実施した。

研究Ⅰ：文献検討より精神科デイケアを利用する統合失調症者に対する就労関連技能の改善に有効な試案版の「就労支援のための作業体験プログラム」を作成した。

研究Ⅱ：最終版のプログラムの完成に向けて、試案版のプログラムが、就労関連技能の回復に有効であるかを検証するための介入を行い、データ収集のために、介入前後に自己効力感、作業能力、職業準備性、自己の能力の現実検討を把握する各評価尺度による測定および半構成的グループインタビューを実施した。

研究Ⅲ：就労支援のための作業体験プログラムが、精神科デイケアを利用する統合失調症者に対し、就労に向けて、有効であるかを明らかにするための介入研究を実施し、データ収集のために介入前後に自己効力感、作業能力、職業準備性、職業興味、自己の能力の現実検討を把握する各評価尺度に評価尺度による測定および半構成的インタビューを実施した。

【結果】

研究Ⅰ：先行文献を統合し、全 8 回で実施される試案版「就労支援のための作業体験プログラム」を作成した。包括的に様々な作業をプログラムに取り入れるために Macdonald の作業分類 (Macdonald,1970) と、Holland の職業選択理論 (Holland,1985) を理論根拠とした。また Yalom の集団の治療因子 (Yalom,1971) で述べられているように、集団での実施は「問題解決能力の改善」や「対人関係スキル」等の就労に重要な要素の能力向上に繋がることが期待できるとして、プログラムは集団で実施することとした。さらに Mosey の提唱した集団関係技能の発達の集団 (Mosey, 1986) を参照し、作業の実施方法を工夫した。また対象者により効果的に作業体験が実施できるよう作業分析の視点を用いたシートの作成や

作業療法士の関わり方も具体的に設定した。

研究Ⅱ：精神科デイケアを利用する統合失調症者4名に対し、8週間に亘り、試案版プログラムを実施した。プログラムの介入前後で有意に得点の上昇が見られた項目はなかったが、自己効力感、作業能力、職業準備性、自己の作業能力の現実検討の項目で、プログラムの介入後に素点の上昇が見られた。またプログラム終了後の半構成的インタビューにおいて、作業体験を重視したプログラムは、研究参加者に「よかった・楽しかった作業」、「難しく感じた作業」、「成功した時の感情」の3つのサブカテゴリーからなる【作業体験から感じたこと】のカテゴリーと、「グループで活動することのメリット」、「作業経験に基づく気づき」、「自己の作業能力に対する気づき」、「体験から感じた職業適性」、「プログラム自体の感想」5つのサブカテゴリーからなる【作業体験からの気づき】のカテゴリーが抽出された。

研究Ⅲ：精神科デイケアを利用する統合失調症者12名に対し、最終版の「就労支援のための作業体験プログラム」を8週間に亘り実施した。職業準備性の社会生活・日常生活の下位項目において、プログラムの介入後に得点に有意な上昇がみられ、また職業興味の一貫性・職業興味の分化においても介入後において有意に向上がみられた。さらに作業能力の研究参加者による主観的評価と客観的評価において、介入前においては、有意な差が認められたが、プログラムの介入後には、有意な差は認められず、主観的評価が客観的評価に近似する結果となった。プログラム介入前のインタビューの分析の結果においては、【働く事への不安】、【働きたい思い】、【期待する支援】の3つのカテゴリーが抽出された。毎回のプログラムの介入後のインタビューでは、「楽しく感じた作業・作業工程」、「難しく感じた作業・作業工程」、「失敗体験後の思い」「成功したときの感情」等の6つのサブカテゴリーからなる【作業体験から感じたこと】と、「失敗体験からの苦手な要素の気づき」、「問題対処方法の気づき」、「共同活動のメリット」、「自己認識とのズレ」、「体験から感じた職業適性」、「プログラムに参加することの効果」の6つのサブカテゴリーからなる【作業体験からの気づき】の2つのカテゴリーが抽出された。さらに終了後グループインタビュー内容について、テキストマイニング分析を行った結果、「できる」という単語が最も多く抽出された。

【結論】

今回、文献検討により作成した「精神科デイケアにおける就労支援のための作業体験プログラム」には、統合失調症者の就労関連技能である自己効力感、作業能力、職業準備性、職業興味の獲得、適切な自己評価の向上に有効であり、今後、精神科デイケアにおける新たな就労支援プログラムとしての活用が期待できる。